



# だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.25

編集	環境パートナーシップちば
代表	横山清美
事務局	千葉市中央区中央港1-11-1 (財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
電話	043-246-2180
FAX	043-246-6969

## 平成 14 年度総会開催

### 環境再生計画提言委員会設置、エコマインド講座への協力など決まる

5月11日(土)千葉市立美術館講堂にて平成14年度環境パートナーシップちばの総会が開かれ、千葉県環境財団から新任の参事、環境学習推進室長の参加を得て、会員28名が出席した。

総会は佐久間隆義氏の司会で始められ、横山清美「環パちば」代表、宮口財団参事の挨拶後、議長に加藤賢三氏、書記に縣和子氏を選出、平成13年度事業報告、会計報告、監査報告が行われ承認された。次いで14年度事業計画、予算案について説明され、県とのいっそうのパートナーシップを築くため、会員の声を集約、政策提言できるよう環境再生計画提

言委員会の設置、環境シンポジウムへの事務局参加、エコマインド講座推進への協力などが提案され承認された。役員選出は、代表には横山清美氏が留任、以下の人事案が全員の拍手で承認された(事業計画、新体制は2ページ)。

その後、会員の活動事例紹介がなされ、(3ページ参照)それぞれに新しい環境保全活動の息吹を感じさせるものであった。「環パちば」は設立6年目になり、県内環境団体ネットワークとして、内外の評価が定まりつつあり、更に内容を充実させることを確認して総会を終了した。

## 「環境保全活動は、楽しく息長く」

代表 横山清美

4月気象庁は、今年の黄砂の延べ観測日数が1967年以降最高値を記録したと発表しました。中国大陸から偏西風によって運ばれてくる黄砂の年々増加は、地球温暖化の影響もその一因と考えられています。京都議定書もやっとCOP7で運用ルールが決まり、2002年8月に開催されるヨハネスブルグ・サミットで議定書を発効させるための準備が各国で行われています。

これら世界や日本の温暖化状況をにらみながら、私たちにできる最良の防止策はひとえに、一人一人のライフスタイルの変革だと考えます。まさに「地球規模で考え足元から行動を!」を継続していかなければなりません。そのためにも環境保全活動を楽しく学ぶ環境学習ツールが必要となってきます。エコマインド養成講座も一新されましたので、まだ受講されていない方にもお勧め願います。

千葉県が堂本県政になってから変わったことは、県民の声が反映された県政をめざして、県民参加が強調されたことでした。環パちばの今年の事業計画にも反映させ、総会后早速5月17日に環境再生意見交換会を開催しました。さらに6月7日と各地で意

見交換会を開催いたします。また、「ちば環境再生(基金)計画」の運用等についての会員の意見を県の施策に反映できるように(仮称)環境再生計画提言委員会を設置することとしました。

今後もだよりの情報をお見逃しなくご意見・ご参加お待ちしております。昨年から動き始めたホームページの運用も充実させていきます。

また2年目になる「エコサロン」も参加者の意見を聞きながら先の企画をしています。お寄せくださったご希望を、できる限り実現していきたいと考えています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。楽しく環境保全できることをめざして。



## 平成 14 年度事業計画

事業	日程	内容
エコサロン	6月21日(金) 8月23日(金) 10月18日(金) 12月20日(金) 2月21日(金)	二神能基氏 市川公民館 18:30~ 未定 未定 未定 未定
学習会	5月17日(金) 6月14日(金) 未定 7月5日(金) 7月12日(金) 未定	「環境再生計画」意見交換会 NPOパートナーシップオフィス 市川・市川公民館 鎌ヶ谷(鎌ヶ谷市協力) 御宿(夷隅13団体協力) 海匝支庁舎(海匝支庁協力) 政策提言への研修
エコツアー	7月 1月	千葉の廃棄物処理見学・エコセメント他 未定
エコメッセ	11月1・2日(予定)	実行委員会参加
環境シンポジウム千葉会議	11月17日(予定)	事務局参加
政策提言		・環境再生計画提言委員会設置 ・アンケート ・意見収集 ・情報公開 ・政策提言 その他
環境学習		・体験的環境学習推進 ・環境マップ推進 ・エコマインド講座の推進 ・その他
だより		5月、7月、9月、11月、1月、3月(いずれも月末発行)
HP		だより等の掲載、掲示板の試行
運営委員会		月一回定例

## 新役員紹介 平成 14 年度運営委員会メンバー

代表	横山 清美	事業部	中岡 丈恵 (部長)
副代表	佐久間隆義 (総務担当)		縣 和子 (副部長)
	大西 優子 (広報担当)	広報部	佐藤 素子 (部長)
	平松 南 (事業担当)		広田由紀江 (副部長)
会計	服部 丈夫	監査	深尾 秀次
	橋本 公江		永島 輝代
書記	本澤美代子	アドバイザー	川原 啓佑
	小関 光二		鈴木 優子
総務部	小野 朗 (部長)		
	北村 元良 (副部長)		

## 活動事例紹介 総会の後に、4組の活動事例の発表がありましたので紹介します。



### 海老川環境マップ作り/ 渡辺 正樹 さん

千葉工業大学修士課程 建築学専攻 鎌田研究室所属  
広報でも活躍中の渡辺さんは、副代表の大西さんや平松さんと一緒に海老川の今と昔を対比したマップを作る千葉県環境生活科のプロジェクトに参加し、その成果を発表してくれました。渡辺さんが描いた「昔」のイラストは、とても魅力的です！昔の話を聞いてまわり、それを形にしていく為に、多くのお年寄り（最高齢 98 歳！）に話を聞きにいかれたそうです。

現在、5.6校の小学校でマップを使った学習の提案をしているそうです。今と昔の対比ということで「昔の生活」が、エネルギー問題な

どの環境問題だけでなく、家族の過ごし方の違いなど家庭の問題にも使え、なおかつ歴史散歩をしている人など他分野の人に協力を求めることも出来、利用価値は無敵大です。聞き入る皆さんもかなり興味深い様子でした。



### 教育と環境を考える / 都筑良明さん 教育と環境を考える会

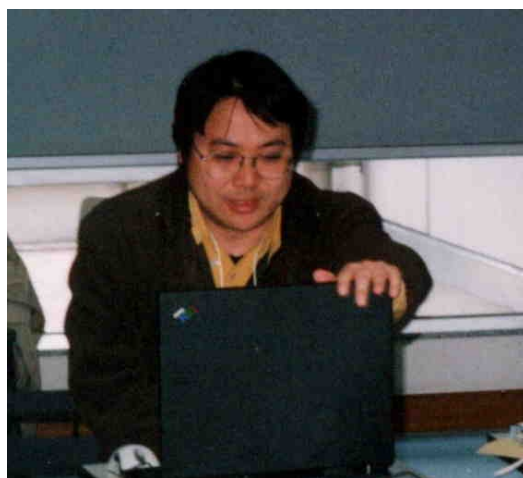
以前に塾で教えていたことがキッカケで、子供たちにもう少し生き生きとすることができる場を提供すること、学校や授業をもう少し活性化させること、学校と教育の信頼性を回復することを思い、公的な補習塾の考え方が教育ジャーナル誌に掲載されました。実際的な活動としては、小学生にパソコンを教えたり粗大ゴミとして出されたパソコンを譲り受けて再生、宮城県の小学校に寄付するなどされています。ハード、ソフトの進歩が早く、5年前の機種がぎりぎり使える程度とのこと。せっかく譲り受けても動作しないハードはどうするのかという課題も残されているそうです。

### 「環境」をテーマに行政とパートナーシップ /

加藤賢三さん他 特定非営利活動法人 八千代オイコス  
八千代ホテルフォーラム

八千代オイコスは八千代ホテルフォーラムを母体に設立されたNPO法人です。「環境」をテーマに行政とパートナーシップを保ってさまざまな活動に取り組んでいますが、今回は、地図を利用したインターネット付箋紙というNTTデータのソフトの試験的な運用による市役所と市民モニターの仲立ちの話が中心でした。

具体的には、八千代市の地図上に行政の持っている水質などのデータを提示し、市民モニターさんがそれぞれの場所の生物、交通などの情報を書き込みます。生き物や木に関する発言が多く、地域の環境価値の再発見に繋がっているとのこと。イベントでなく継続的に活動できることが魅力であり、市民が街づくりを自分たちの問題として関与していくネットワークになっています。普段はネット上の付き合いですがオフ会をして、実際にも交流を深めているそうです。



説明担当、八千代オイコスの寒川さん



### 学校ビオトープの活用 / 横田耕明さん あおぞら教室 グループ 2000

前号でビオトープコンクール入賞について寄稿してくださった横田さんです。この発表を聞くためだけにいらした方もいました。ビオトープを作るだけでなく、維持を子供たちもしているとのこと。メダカを通して環境問題を学んだり、プラタナスの枝を組んでドームを作り、ツタ類を植えて緑の屋根を作るなど、維持というより進化という印象です。子供がビオトープにふれることにより命や生き物への興味が増し、家でもよく話していた結果、お父さんも参加するようになるなど「ビオトープを育てていこう」という地域でのビオトープ作りへの布石になっているとのこと。ビオトープは日々変化していくので完成はなく、完成するとしたらそれは地域に根ざした時ではないか、ビオトープは「学校のもの」から「地域の宝物」に変化しつつある、という言葉が印象的でした。

### だより 24 号 お詫びと訂正

6 ページ <祝！第二回全国学校ビオトープコンクール入賞>の記事において

「青空教室」は「あおぞら教室」の間違いでしたこと、稲浜小の行木とみ子校長先生、池田弘校長先生の下の名前が抜けておりましたことをお詫び申し上げます。



## 第 6 回エコサロン

# 市民参加と協働・パートナーシップを考える

4月19日第6回エコサロンの講師はシーズ・市民活動を支える制度を作る会所属の小坂雄二さん。

NPO法施行以来丸3年、多くのNPOが誕生し、行政との協働（パートナーシップ）も多くなってきました。見えにくい環境活動をしている任意の団体もNPOとして法人格をえて、地味な活動が行政の条例策定や環境学習の場でも生かされるようになりました。一方で一種のブーム化を危ぶむ声も出始めました。私たちはパートナーシップをこれからどうすすめていけばよいのでしょうか。講師の小坂さんはNPO法成立からガイドブックの作成、行政の運用チェック、さらにはより使いやすいNPO法の改正にも取り組んでいる「シーズ」のスタッフで、「いちかわFM」(83MHz)で、毎週木曜午前10時~11時「こさかゆうじのボランティア・サイトマップ」のレギュラーパーソナリティも務めています。

### 市民参加の必要性

従来の日本では、公益に関すること、環境整備、教育、福祉などは主として行政が担当し、事業を法律によって定義し、その担い手として外郭法人をつくり、それに財源を保障してきた。その仕組みは、おおむねうまくいってきたが、80年代から、市民一人ひとりのニーズが多様化し、政府の社会サービスでは追いつけなくなったり、あるいはその質が違ってきて、多様な住民の要望にこたえるものではなくなってきた。そこで、さまざまな公益に関する市民活動が活発におこなわれるようになる一方、行政にもさまざまな市民参加の手法が取り入れられるようになった。

### 市民参加の手法と効果

市民参加の手法としては、自治法による条例改正や監査請求、議員や市の3役の解職請求、公聴会の開催などのほか、審議会委員の公募、市民アンケート、フォーラムやワークショップ、意見の公募などがある。行政に市民が参加することによる効果としては、市民のコンセンサスの形成や、アイデアの活用、市民と行政の信頼関係がよくなること、行財政の効率化が図れることとともに事業のPRにも役立つ。

### 協働の意義、メリット

事業実施の手法として協働、補助、委託、共催、助成、実行委員会などの方法がある。

「協働」は、行政とNPOの目的が共通する事業であるときに、互いに協力し合って事業を行うことで、両方の目的が相乗効果を挙げ、受益者にとっても効果があることが「協働」の意義である。このために、協

働は行政の下請けではなく、行政とNPOが相互に自立して対等であり、合意による役割分担がなされることが大切である。

協働することにより、行政は団体の持つ柔軟性や迅速性、専門性を施策に反映し、役割分担が従来行政が考えていた公益の範囲が狭まり、この結果、行政の自己改革につながる。

団体はその組織の使命を効果的に実現でき、活動範囲が広がる、行政の情報や調査力の活用ができる、委託費や助成費により財政基盤が安定するなどのメリットがある。また、市民にとってもニーズにマッチしたきめ細かなサービスが受けられ行政が身近になる、新しい雇用の機会が拡大するなどのメリットがある。

### 協働を進める上での注意点

従来の社会福祉法人や公益法人との関係に慣れている自治体は、知らず知らずのうちにNPOをも下請化しようとする傾向がある。NPOは目的を持った自立した団体であり、行政の補完的存在でないことを意識改革することから始めたい。

情報の共有化には、行政と団体だけでなく市民の参加を条例で定めることが望ましい。また、多様な市民のニーズにこたえたNPOの生まれてきやすい環境を整備し、協働の相手を質・量とも充実させ、競争原理を働かせることが公平性からも欠かせない。

事業実施にあたっては、住民のニーズがあり、協働により効果のあるサービスが提供できるか、協働の相手を選ぶ基準の情報公開や結果の公表、行政・団体・受益者による協働の評価がきちんと行われることが必要である。

悪い例として次のような例が挙げられる。

- 協働と支援を混同する事業
- 行政と受託側だけで受益者無視の事業
- わざわざ協働という名目で事業を作る事業
- 双方で事業目的が違うが財政面で折り合い行う事業
- 契約で対等でない事業
- 競争入札でない場合の情報公開がない事業

(文責：広報部)



# 環境ムーブメント「全国一斉ゴミ拾い in EARTH DAY」@ちば 「アイルランド代表を、きれいなまちで迎えよう！」

楽しくみんなでアピールゴミ拾い 江戸川大学環境情報学科 小西 朝希子

昨年環境シンポジウム千葉会議がきっかけで立ち上がった「ちば学生環境ねっとわーく」は、学生同士の横のつながりを持ちたいと思う学生の集まりです。ふだん学生同士集まりにくいいため、主にメーリングリストでの意見や情報交換をおこなっています。学生同士の横のつながりを持つことで、多くのアイデアや情報が得られたのではないかと、私は考えています。

4月21日に『環境ムーブメント「全国一斉ゴミ拾い in EARTH DAY」@ちば』に参加しました。私自身は主体的に関わっていなかったのですが、当日のことや参加して感じたことを簡単に紹介したいと思います。

このイベントは、環境ムーブメントに関わっている学生からの誘いを受け、ちば学生環境ねっとわーくで

も参加者を募り、ただのゴミ拾いではなく、多くの人の視覚に訴えるアピール活動をおこなおうということになりました。当日はあいにくの雨で、参加者も15人程度で、アピール活動には少なすぎるメンバーでしたが、千葉駅周辺をグループに分かれゴミを拾っていきましました。参加大学は、千葉大学・江戸川大学・東邦大学・慶應義塾大学の4校で、初めて顔を合わせた人が多く、まだまだ横のつながりを広げなければと考えさせられました。千葉駅周辺には、思ったよりごみが多く、雨の中拾うのに精一杯で、アピールがあまりできなかったのが残念なところですが、参加者の仲間づくりの場としての役割を果たせたのではないかと思います。これをきっかけに今後の活動につなげていきたいと考えています。

環境問題を解決するためには、気づいた人が、できることから行動することが大切です。学習会活動を通じて環境情報の発信基地の役割を引き受けてはいますが、コンシューマーだけの活動は少ないです。私達の日常生活を振り返ってみても、毎日の買い物を通してのグリーンコンシューマーとしての実践を深めることを容易にするための実態調査、生活用品を永く使い続けるための工夫につながる情報収集等、しなければならぬことが沢山あります。

まずグリーンコンシューマー関東ネットワーク(代表世話人:緑川芳樹)の一員として買い物ガイドの見直し作業に取り組みました。1ヶ月1回のペースで作業を進めました。安全基準の確率されていない品目を避けて、すぐに検討可能な分野から始めました。紙製品・文具・木製家具・家電製品・住まいと関連ある商品などを取り上げました。

次は12月1日~12月8日に新宿パークタワーで開催された「ライフスタイル見直しフォーラム2001」の分科会「グリーンコンシューマー・フォーラム 買

い物から見直すライフスタイル」に委員としてお手伝いしました。事業者、消費者団体、市民が多数参加して会場は熱気に溢れていました。

次にエコロジー商品をネットで検索するシステム「エコどこナビ」が3月から開設されました。これは人気の「飲食店ナビ」のエコ商品版で、全国1500店舗以上の登録を目指しています。エコマーク、省エネマーク、有機JASマークなど第三者機関に認定されたエコロジー商品の登録店を登録し、事務用品、台所用品、家具、食品、家電などのエコ商品をどこで買えるか検索できるようにする。また店が行っているエコ活動も紹介する。発足間もないため千葉県登録が少ないのが残念です。

GPN(グリーン購入ネットワーク)

<http://eco.goo.ne.jp/gpn/index.html>

エコどこナビ

[http://machi.goo.ne.jp/eco/search/index\\_ex.asp](http://machi.goo.ne.jp/eco/search/index_ex.asp)

## グリーンコンシューマー 活動に参加して

前事業部長 田口 迪夫

## 環境教育資料作成 海老川マップ作りにかかわって

海老川マップは、難産でしたが、とりあえずは予定通り刊行されました。何が難産かという、まずはイラストの作者選び、次に描かれた画に対する専門家の指摘をどこまで取り込むという点でした。海老川に決まるまでも、いろいろな議論があったことは前回述べ

副代表 平松 南

た通りですが、いざ決まってみると、次なる難題は、一体この難しい仕事を、誰に頼めるのかということでした。印刷所の方で探してもらおう、誰かが提案しました。しかし、印刷所社内に、よいイラストレーターがいるはずもなく、とんでもない人を連れてこられて

も、断るのに苦労するのです。そこで、川のマップを専門に手掛けている村松昭さんに相談することになりました。村松さんは、私の神楽坂のオフィスで、湯下さん、小倉さんらの説明を聞いていて、段々不愉快そうな顔になりました。いままで、村松さんは、利根川、信濃川、隅田川、多摩川、神田川など、大小河川の優れた絵地図を多く世に送り出して、その筋でとても評価の高い人ですが、「いままでは、自分が調査し、構図を決め、出来た所で作品を発表してきたのに、今回は、注文も厳しく、途中で専門家のチェックが入るとこのじゃ、完成できるか自信がもてない」というのです。謝礼の額はなんとか妥協してもらいましたが、製作工程が、一言で言うと、干渉が多すぎると思ったようです。結局村松さんとは折り合いがつかず、村松昭作「海老川絵地図」は、流産でした。村松さんに断られてみると、次が続きません。かつて在籍した講談社の美術出版の友人に相談してみました。一流所はギャラが高

いし、書き直しが効かない、一発勝負のイラスト世界です。イラストレーターの下働きで、調査・下絵は、環パちばの学生会員渡辺くんが受け持つことにはなっていました。現地調査のうえ、生物などは、中央博物館の先生がたの監修をお願いしているので、「絵画的」といって逃げられません。イラストレーターにはこの点も、辛い作業です。この渡辺画伯の下絵がすばらしく、本画に採用し、渡辺画伯の処女作になったうれしい誤算はありましたが、それはずっと後の話で、とにかくイラストレーターを決めなければと、私と湯下さんは焦りました。時間はどんどん経ちます。そこで私は妙案を考えました。中山康子さんというデジタルアーティストの起用です。彼女なら、パソコンで画を書くので、専門家の指摘も、画面上で修正できる、これしかない。私は湯下さんにはやる気持ちを押しさながら、電話しました。しかしこれは、苦難のほんの入り口だったのです。(続く?)

## 「エコマインド養成講座が変わりました」

千葉県環境生活部環境政策課

エコマインド養成講座(千葉県と(財)千葉県環境財団の主催)が新しくなりました。この講座は、千葉県環境学習基本方針の中の「指導者づくり」の中核事業として、一般県民、教師、地域・企業・団体の方々を対象に、環境問題の現状解説、体験学習、実践活動への体験参加(インターン制度)等を内容とした講座を開催し、環境学習指導者を養成します。

千葉県環境生活部環境政策課  
県民コースは、一貫性のある講座が受けられるように体験と実践がひとつになりました。

学ぶ形を受講生が選択できるように、必修科目と選択科目からなる単位制が導入されています。インターン制度が必修化され、期間も長くなりました。

以下今年のエコマインドの概要ですが、詳細は(財)千葉県環境財団環境学習推進室へお尋ねください。

### 平成14年度エコマインド養成講座のご案内

#### 1 講座主旨

本講座は、環境に関する知識を得るだけでなく、参加体験型の学習を通じて自然に対する感性や人と環境、さらに人と人との関わり方を学びます。環境を大切に思う心(エコマインド)を育むとともに、環境学習の普及啓発・指導を行なえる人材または地域での環境保全活動のリーダーの育成を目的としています。

#### 2 主催

千葉県、(財)千葉県環境財団

#### 3 開催日程

6月26日～12月21日

必修科目 11科目(8日)

(インターンで選択するものによっては9日以上)

選択科目 13科目(13日)

同封の日程表をご参照ください

#### 4 定員

平日、土日各コースとも 35名

#### 5 参加費

500円/日(保険・資料代として)

#### 6 修了証

全ての必修科目、選択科目の各分野(気づき・技能、研究機関の情報)からそれぞれ1科目以上を受講された方には千葉県知事名で修了証を交付いたします。

#### 7 問い合わせ、参加申し込み

事務局:(財)千葉県環境財団環境学習推進室

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-11-1

TEL 043-246-2180 FAX 043-246-6969

E-mail [ecogksyu@fancy.ocn.ne.jp](mailto:ecogksyu@fancy.ocn.ne.jp)

URL <http://www.ckz.jp/4-1-4.htm>



# 「ちば環境再生計画」をより良く一環パちばに委員会を設置

副代表 大西 優子

これまで、県事業である「ちば環境再生計画」の担当者による説明と検討会を、環パちばとしても積極的に取り組んできました。

その中で出された意見を踏まえ環パちばが、今後どう関わっていくかについてアンケートを実施し、予想をはるか上回る熱心な回答(72通)を頂きました。主な意見は次のとおりです。

- 市民が運用の主体になることを期待。
- 趣旨目的をもっと県民にわかりやすく明確に情報公開し、全県民参加の計画として県の縦割り行政を横断的に見直し、この計画遂行に県民・企業・行政が一体となって連帯強化すべき。
- 具体的な事業の早期展開・実現を望む。
- もともと環パちばは行政・企業・市民活動のパートナーシップを目指しておりこれこそ目的に適しており、会員の意見を反映させるべく提言を続ける委員会を設置して欲しい。

5月11日の総会では、環パちばの中に委員会を設置することが承認され、早速、委員会参加希望者による初会合を5月17日に持ちました。ここでは、県から「千葉県資源循環型社会づくり計画(仮称)の骨子案」と連携する「ちば環境再生計画」の具体的プランとして「なのはなエコプロジェクト」の概略の説明を受け、(案)でNPO等という表現がされているが、NPO・NGO等としたほうがいい-検討する-(案)策定の日程は-10月には決定したい-等の質疑がありました。

この会合後、開かれた運営委員会で、環パちば内の「ちば環境再生計画」プロジェクトとして事業部が委員会を担当することになり、日程的にも「ちば環境再生計画」の構成等骨格への要望を早急に取りまとめることを確認しました。

## 環境パートナーシップちばHP担当者紹介

(環境パートナーシップのホームページの更新は縁あって神奈川県在住の北村さんをお願いしています。普段顔の見えないHP担当者の自己紹介をお願いしました。)

HP担当 北村 紘次

千葉県とは、時々行く「幕張メッセ」と「ザウス」以外には特別な関係のない「横浜市青葉区民」ですが、縁あって ホームページを担当しています。

1941年10月、太平洋戦争開戦直前神戸市にて生まれる。4歳のとき、神戸にも空襲があり、一家で防空壕に避難した。そのときのグラマン(戦闘機)に先導された、B29爆撃機の爆音、雨のように降ってくる焼夷弾のヒューという風きり音、地上に落ちたときの爆発音が、未だに耳の奥に残っている。今も世界各地で戦争が絶えないこの頃ですが、最も環境を破壊する戦争は絶対に廃絶すべきものだ。

学校を卒業してすぐ、現在の「日本ユニシス」の前身、「日本レミントンユニバック」に入社。真空管式のコンピュータと出会う。以来、コンピュータに深く、時には浅く係わってきて42年。当初はハードウェアの保守、その後ハードウェアの開発、評価などを担当し、最近パソコンを使用する立場でコンピュータに係わっている。

Windows、Linux、ホームページ、ウェブ/データベースサーバーなど、広く浅く、何でも屋的に、又部品を集めてパソコンを自作したりと、多岐にわたるが、いずれも趣味の範囲。趣味といえば、50歳頃から始めた アルペンスキー。会社のスキー部に所属し、シーズン中に3回の大会と、4~5回の合宿等に若者に負けじと参加している。もう一つの趣味は、合唱。新星合唱団に所属し、主に宗教曲を中心に、時にはオペラの合唱曲などを手がけ、東京芸術劇場や新宿文化センターなどで年間5~6回の演奏会に参加している。



<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi>  
ぜひ一度お立ちください

環境パートナーシップちば

環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連携のもと、総合的情勢交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的とするネットワークです。

M	環境パートナーシップちばの紹介	どんな活動をしている団体なの? 目的、事業の紹介、規約、入会のご案内
E	本年度の事業方針と運営	平成13年度の事業方針と運営体制(役員)
N	イベントと事業のご案内	本年度の年間事業とイベント案内
U	トピックス(最近の話題)	最近の話題やトピックス、イベントの感想も
	エコサロン	エコサロンからの報告
	会員の紹介(link)	団体会員の紹介(link)と相互リンク

ご意見などありましたら、ここへお願いいたします。

あなたは  番目のお客です。(2001.4.1~)  
更新日: 20/2002/0.14.47

# お知らせコーナー

## 千葉県環境研究センターの催し

問い合わせ：環境研究センター企画情報室  
Tel : 0436-24-5309 Fax : 0436-23-2870  
メール [kankyoken@ma.pref.chiba.jp](mailto:kankyoken@ma.pref.chiba.jp)

### 平成 14 年度第 2 回公開講座

開催日：平成 14 年 6 月 9 日（日）10：00～12：00  
場 所：千葉県環境研究センター水質地質部  
千葉県美浜区稲毛海岸 3 - 5 - 1  
Tel : 043-243-0261 Fax : 043-243-0263

テーマ：「ふれてみよう房総の地質環境」  
展 示：地球環境の変遷、千葉県の大地の生い立ち、県内の地下資源、地盤沈下、地質汚染の調査と対策、地下地質情報に関する資料、地震の観測等  
実験・体験：地層の液状化実験、水準測量、上総掘り、地下水流道と地下水汚染の進行の実験、距離当てクイズ等  
展示の説明や実験体験をとおして地質環境を解説します。  
申込はいりません。当日会場へお越し下さい。

### 研究室公開

大気部 廃棄物・化学物質部（市原市岩崎西 1 - 8 - 8）  
日 時：平成 14 年 6 月 24 日（月）～29 日（土）  
平日は 9:00～16:30、29 日は 10:00～15:30

問い合わせ先：大気部 - Tel : 0436-21-6371  
廃棄物・化学物質部 - Tel : 0436-23-7777

水質地質部（千葉県美浜区稲毛海岸 3 - 5 - 1）  
水質棟（問い合わせ先 Tel : 043-243-2935）  
平成 14 年 6 月 3 日～7 日、9 日 10:00～16:00  
地質棟（問い合わせ先 Tel : 043-243-0261）  
平成 14 年 6 月 3 日（月）～9 日（日）10:00～16:00

### エコパーク 2002 詳細はまだ決まっています。

開催日：平成 14 年 6 月 29 日（土）10:00～15:30  
場 所：千葉県環境研究センター（市原市岩崎西）  
内 容：環境に関するパネル展示、エコグループ実践発表、クイズラリーなど。  
当日研究室公開も併せて行っています。  
雨天決行、申込等は特に必要ありません。

## 環境キャンペーン（浦安市）

開催日：平成 14 年 6 月 29/30 日  
会 場：新浦安駅前、WAVE101  
環境キャンペーンの目玉として、なんと！  
「**ダイオキシンの夏**」が上映されます。  
会 場：WAVE101 小ホール  
時 間：10：30～/12：30～/2：30～  
定 員：各回 60 名（無料）

## 環境フェア（船橋市）

開催日：6 月 8 日（土）10：00～  
会 場：船橋中央公民館  
環境団体の展示と実演・学校の環境に対する取り組みの発表会です。（環パちば・ふなばしも展示します）

## 第 10 回「いちかわ環境フェア」

開催時：6 月 8 日（土）10：30 分～3：30  
会 場：メディアパーク市川（生涯学習センター）  
JR 本八幡・下総中山、京成鬼越駅から徒歩 15 分

## 第 7 回エコサロンのお知らせ

日 時 6 月 21 日（金）18：30～20：30  
会 場 市川公民館（JR 市川、京成線市川真間下車）  
講 師 二神能基さん  
内 容 「引きこもりは地域が救う」  
定 員 20 名 参加費 500 円  
問い合わせ先：エコサロン担当 平松南  
Tel : 090-2658-5093 Fax : 047-375-2987

\*\*\*\*\*  
環境シンポジウム事務局お手伝い募集  
11 月 17 日に環境シンポジウムが開かれる予定です。  
今年も環パちばが財団と共に事務局に入ります。  
実行委員以外の方で事務局の仕事を手伝っていただける方は、是非お申し出ください。  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\* 編集後記 \*\*\*\*\*

黒澤明脚本の「海はみていた」の試写に行ってきました。深川の遊女の恋を描いた映画です。話よりも、江戸時代の深川は目の前が海だったのかとか、河川の増水の様子など、環境設定がとても気になりました。何だか深川ではなく浦安を思いながら見ていたところ、エンドロールでは協力で浦安市郷土博物館の名前も発見し、びっくりしました。（広田）  
（古紙 100%再生紙使用）

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。  
申込先：千葉県環境財団環境学習推進室気付  
TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969  
会費納入先：環境パートナーシップちば  
郵便振替口座 00160-9-401872  
ホームページ：  
<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境推進学習室気付

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）  
会費を添えて入会します  
（該当するところを で囲んでください）

氏名		入会年月	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000 円 賛助会員 5,000 円		



